



The Masters of
Sekisyu-Kawara

Jスター (石州J形53B)

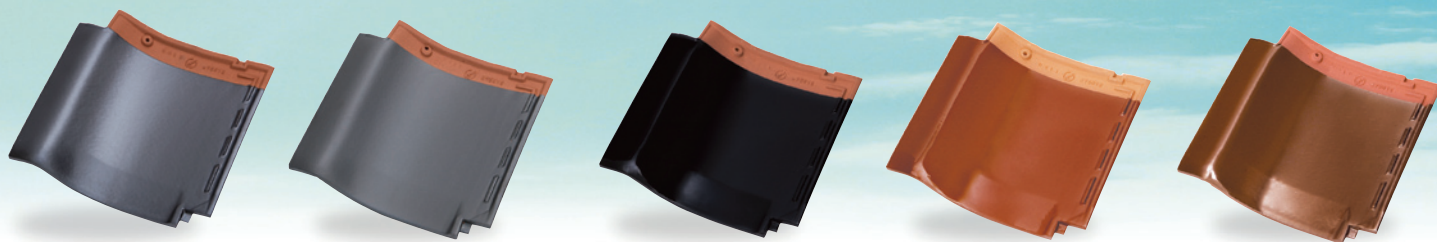
石州防災和瓦 ジェイ Jスター

伝統と新鋭の
技術の融合

100年瓦・石州

石央瓦販売株式会社

● Color Variation 常備色



銀黒色

いぶし色

鉄砂色

赤色

来待色

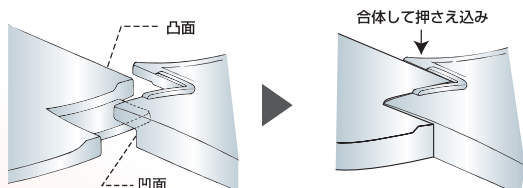
※いぶし色・来待色は割高となります。また、上記常備色以外についてはお問い合わせ下さい。 ※写真は印刷のため、実際の色と多少異なることがあります。

耐風

SYSTEM

従来のお尻部分に設けた重なり板で、瓦同士を押さえ込む合体構造。風による瓦の浮き上がりを阻止。特に左下からの逆風に、大きな威力を発揮します。

●瓦同士の合体構造



耐震

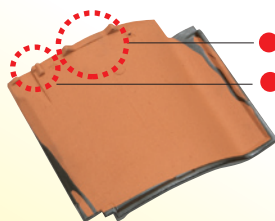
SYSTEM

瓦同士の押さえ込みシステムと引っ掛け駒・安定駒組合せ構造によって、地震によるズレや浮きあがりをガッチリ防ぎます。また、オプション施工の『縦棧施工』で防災性をさらにアップできます。縦棧施工については、別途お問い合わせ下さい。

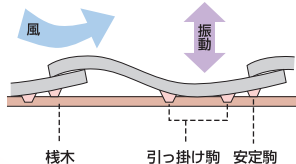
縦棧施工



- タテ・ヨコのクロスロックで瓦ズレなし!
- 瓦がズレないから地震・台風にも安心!
- タテ・ヨコラインの仕上がりが美しい!



- 引っ掛け駒
- 安定駒の組合せ構造



防水

SYSTEM

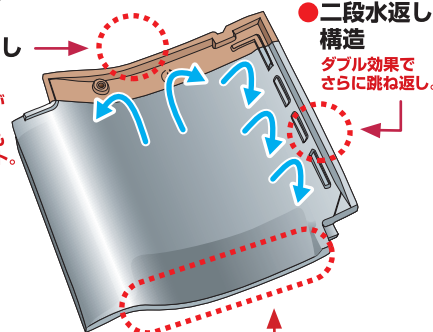
流れ方向に高い水返し、サイドに二段の水返しを設け、逆水を強力にハネ返します。だから緩勾配屋根も施工可能です。

●高い水返し構造

高い防波堤が流れ込んだわずかな水もシャットアウト。

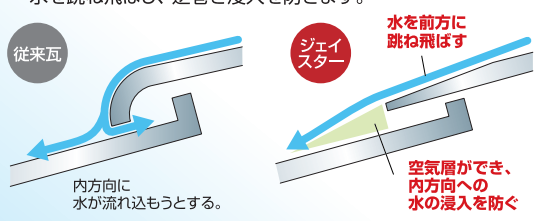
●二段水返し構造

ダブル効果でさらに跳ね返し。

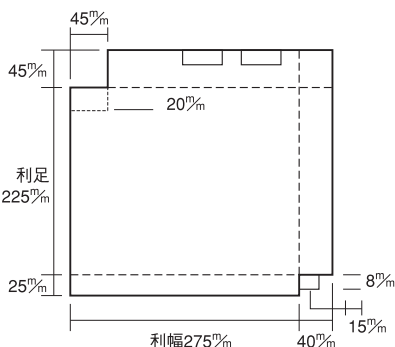


●スロープと切り落としのダブル効果

瓦前面に施されたスロープは、水の流れをよりスムーズにするための細やかな工夫。さらに小口を直角に切り落とすことで、水を跳ね飛ばし、逆巻き浸入を防ぎます。



●製品仕様

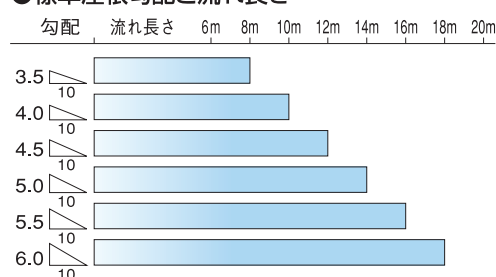


寸法	全長295mm (±4mm)	全幅315mm (±4mm)
働き寸法	長さ 225mm (±4mm)	幅 275mm (±4mm)
葺き枚数	16枚/㎡・53枚/坪	
重量	45kg/㎡・150kg/坪	

項目	製品規格	試験方法
曲げ破壊荷重	1960N以上	JISA5208 5.3
吸水率	6% (社内平均値)	JISA5208 5.4
凍害試験	25回の繰り返し異常なし	JISA5208 5.5
耐薬品性能	異常なし	JISA5208 7.13
耐風性能試験 瓦屋根標準設計・施工 ガイドライン標準試験	3600N/㎡	

※上記製品性能値は試験結果であり、保証値ではありません。

●標準屋根勾配と流れ長さ



※この性能値は、保証値ではありません。
強風、雨量など地域性や施工物件 (高さ・構造etc) に応じて適切に対応してください。



100年瓦・石州

石央瓦販売株式会社

本社 〒695-0024 島根県江津市二宮町神主1820番地5
TEL (0855) 53-0521 FAX (0855) 53-3935

益田支店 〒699-5133 島根県益田市神田町イ627番地1
TEL (0856) 31-5115 FAX (0856) 25-2100

福井営業所 〒918-8016 福井県福井市江端町5番地11
TEL (0776) 34-8613 FAX (0776) 34-8614

粘土瓦の特性について

粘土瓦は天然のため、下記のような現象が発生する場合がありますが、製品欠陥ではなく、品質上の問題はまったくありませんので安心してご使用ください。
【色ムラ】粘土成分の微妙な違いや、焼成窯内の環境の変化により微妙な色合いが発生することがありますが、品質上の問題はありません。
【貫入】釉薬表面に発生する細かい亀裂を貫入といいます。これは粘土と釉薬の収縮率の違いから生まれる自然現象であり、品質上の問題はありません。
【ピンホール】釉薬表面に発生する小さなへこみをピンホールといいます。これは釉薬の気泡や粘土に若干含まれている有機物が焼成によって消滅することで生まれますが、品質上の問題はありません。

安全に関するご注意

- 粘土瓦の施工には専門の工事が必要です。専門工事業者にご相談ください。工事に不備があると、落下・雨漏り等の原因になることがあります。
- 寒冷積雪地域、強風地域、あるいは中高層の建築物では、特殊な工事をする場合があります。こうした条件で粘土瓦を使う場合には、専門工事業者にご相談ください。
- 粘土瓦を使った屋根は、関連する工事標準仕様書に基づいて設計してください。特殊な設計を行う場合は、専門工事業者にご相談ください。